

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/01

重要経済イベントが並ぶ

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➔	徐々に米雇用統計を睨んでの展開へ 予想レンジ: 75.50 ~ 80.00 円	2 - 3
カナダ/円	➔	焦点は米景気の行方に 予想レンジ: 80.20 ~ 84.30 円	4 - 5
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 7/25～29の主な推移

※4時間足



7/25 Monday	早朝に米共和党のペイナー下院議長が「債務上限で合意に達していない」と発言したことを受けて78.20円前後の安値水準でスタート。その後は仲値公示に向けたドル買いなどもあり、一旦78.56円まで上昇したが、米債務上限引き上げ協議の難航ぶりを手掛かりに夕方からドル売り・スイスフラン買いが進むと、ドル/円でもドル売りが優勢となり、78.05円まで下落した(①)。
7/26 Tuesday	日本時間10時からオバマ米大統領が演説を行い「赤字削減や債務に関する行動の失敗は雇用を犠牲にし、経済に重大な損害を与える可能性」「共和党が歳出のみの取り組みに固執している」などと発言した。この演説で米債務上限引き上げについての協議に進展がないことが明らかになると、ドルは全面的に下落し、ドル/円は77.90円まで値を下げた(②)。その後にもまとまった円売り・ドル買いが入ると、政府・日銀による円売り介入観測を絡めながら78.69円まで急騰したが、次第に「介入ではなかったようだ」との見方が広がると、上げ幅を大きく縮小。米国市場では米2年債入札が無難な結果になり、米国債利回りが低下すると、ドル/円は77.82円まで値を下げた。
7/27 Wednesday	米債務上限引き上げ協議が難航していることを受け、朝からドル安・円高が進行。豪第2四半期消費者物価指数が市場予想を上回り豪ドル/米ドルでドル安が進んだこと、月末を睨んだ本邦輸出企業のドル売りが散見されたことなどを背景に77.57円まで値を下げた。しかし、夕方にシヨイブレ独財務相が「政府は欧州金融安定ファシリティ(EFSF)と欧州安定メカニズム(ESM)による流通市場での債券買い取りの全権委任は拒否する」「ユーロ圏の危機が1回限りの首脳会議で永久に払拭されると考えるのは間違い」などと述べたことで、欧州の債務問題への不安が再び広がり、ユーロ/ドルではユーロ安・ドル高が進行。これを受けてドル/円でもドル買い優勢となり、米国市場では78.17円まで上昇した(③)。
7/28 Thursday	アジア株が総じて軟調で円が全面的に上昇。さらに、与謝野経済・財政担当大臣の「為替介入に関して」8月2日の米債務上限引き上げを見極める必要がある」等との発言が報じられると、足元の円売り介入観測が後退し、ドル/円は下落した。その後、欧州株が安寄りし、クロス円が下落すると、ドル/円は77.62円まで値を下げた(④)。
7/29 Friday	11時過ぎに、米国時間28日中に米下院で採決が行われる予定だった債務上限引き上げについてのペイナー下院議長案について、採決延期が報じられると、ドル安が進行。77円台半ばでは底堅さも見せたが、21時30分発表の米第2四半期国内総生産(GDP)・速報値が前期比年率+1.3%と、市場予想(+1.8%)を大きく下回った。さらに第1四半期GDPも大幅に下方修正(+1.9%→+0.4%)されたことを受け、ドル売りが加速(⑤)。引けにかけては77.00円割れを狙った仕掛的なドル売りもあり、ドル/円は76.85円と3月17日以来の安値水準をつけた。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

先週のドル/円相場は76.85円～78.69円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.1%の下落(ドル安・円高)となった。この間、ドル/円は米債務上限引き上げ問題の混迷を背景にジリジリと下値を下げる展開。週後半は77円台半ばで底堅さを見せるも、米GDPの弱い結果を背景に一段安となった。

今週のドル/円相場の序盤の鍵は「米債務上限引き上げ問題の行方」になるだろう。1日の朝時点で与野党指導部で合意に至ったことが明らかになっているが、与野党それぞれに造反議員が出る可能性がある以上、議会での合意に至るまでは緊張状態が続きそう。それまではドル/円の上値はかなり重いと考えられる。一方、上下両院で合意に至り、この問題についての懸念が払しょくされれば、これまで売られていたドルは対円で急反発するだろう。ただし、この問題の決着如何に関わらず、格付け会社が米国の格付けを引き下げた場合は一時的にドルが大きく売られる要因になるとみる。

また、今週の米国では多くの重要指標が発表される。1日には7月ISM製造業景況指数、3日には7月ADP全国雇用者数および7月ISM非製造業景況指数、4日には週次の新規失業保険申請件数、5日には7月雇用統計と、1カ月の中で最も市場の注目度が高い指標ばかりが並んでいる。米債務上限引き上げ問題がひと段落すれば、相場はこれらの結果に一喜一憂して動く展開になりそう。 (ジェルベズ)

(予想レンジ: 75.50～80.00円)

CAD/JPY

カナダ/円 7/25~29の主な推移



7/25 Monday	格付け会社ムーディーズがギリシャの格下げを発表した事や、米債務上限引き上げ問題の混迷を嫌気して、欧州株が安く始まると、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は82.15円まで下落した。(①)しかしその後、安く始まったNYダウ平均株価が下げ幅を縮小すると、カナダ/円は82.97円まで反発した。
7/26 Tuesday	ドル/円にまとまった買いが持ち込まれると、本邦当局による円売り介入観測を巻き込みながら70銭ほど急騰した。これにつれてカナダ/円も83.24円の高値まで急騰したが、その後、この急騰は介入によるものではなかったようだとの見方が拡がり、ドル/円が下落すると、これにつれてカナダ/円も82円台に押し戻された。(②)
7/28 Thursday	米新規失業保険申請件数の好結果を受けて堅調に推移していたNYダウ平均株価が、米債務上限引き上げ問題の混迷を嫌気してマイナス圏に転落し、引けにかけて下げ幅を拡大すると、カナダ/円は81.61円まで下落した。(③)
7/29 Friday	米下院議会で、この日(現地時間28日)に予定されていた債務上限引き上げに向けたバイナード下院議長案の採決が見送られる事が明らかになると、時間外のNYダウ先物が急落し、リスク回避の動きからカナダ/円は下落。その後、米第2四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+1.3%と予想(+1.8%)を大きく下回り、第1四半期GDP・確定値も+1.9%から+0.4%に大幅下方修正されると米国景気の減速懸念から、時間外のNYダウ先物や原油価格が急落。リスク回避の動きが加速すると、カナダ/円は80.41円に安値を付けた。(④)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は80.41円～83.24円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約2.8%の大幅下落(カナダドル安・円高)となった。この間、NYダウ平均株価は約4.2%の下落、原油価格(WTI期近物)も約4.0%の下落となっており、金融市場全般でリスク回避ムードが高まった週となった。

最大の要因は、米国の債務上限引き上げをめぐる協議の混迷であったが、1日の日本時間9時40分にオバマ米大統領が声明を発表し、債務上限引き上げと財政赤字削減策について与野党指導部による合意を明らかにした事で、米国のデフォルト(債務不履行)懸念が後退、リスク回避ムードは和らいでいる。本稿執筆時点では、カナダ/円も81円台後半まで反発しており、下値不安は一旦後退したと言えるだろう。今後は、徐々に米国景気の行方へと焦点が移ることになりそうだ。

今週は、1日に米7月ISM製造業景況指数、3日に米7月ADP全国雇用者数や米7月ISM非製造業景況指数、5日には米7月雇用統計と重要統計の発表が相次ぐ。29日に発表された米第2四半期国内総生産(GDP)が予想以上に米国景気の減速を示した事もあって、米経済の先行き不透明感が強まっており、今週発表される経済指標に弱い結果が相次げば、カナダ/円にも再び下落圧力がかかる可能性もある。一方で、経済指標に強い結果が目立てば、第3四半期以降の米国景気回復期待から株高・資源高が進み、カナダ/円の上昇要因となるだろう。今週は、カナダ/円の目先の方向感を探るうえでの重要な週となりそうだ。
(神田)

(予想レンジ: 80.20～84.30円)

経済指標カレンダー (8/1~4)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/1	—		シドニー休場(バンクホリデー)、トロント休場(シビック・デー)		
(月)	17:30	◎	(英) 7月PMI製造業	51.3	51.0
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月失業率	9.9%	9.9%
	23:00	◎	(米) 7月ISM製造業景況指数	55.3	55.0
	23:00		(米) 6月建設支出 [前月比]	-0.6%	-0.1%
8/2	10:30		(豪) 第2四半期住宅価格指数 [前期比]	-1.7%	-1.0%
(火)	10:30		(豪) 6月住宅建設許可件数 [前月比]	-7.9%	+2.5%
	13:30	◎	(豪) RBAキャッシュターゲット	4.75%	—
	16:15		(スイス) 6月実質小売売上高 [前年比]	-4.1%	—
	16:30		(スイス) 7月SVME購買部協会景気指数	53.4	52.8
	17:30	◎	(英) 7月PMI建設業	53.6	53.2
	18:00		(ユーロ圏) 6月生産者物価指数 [前年比]	+6.2%	+6.0%
	21:30		(米) 6月個人所得 [前月比]	+0.3%	+0.2%
	21:30		(米) 6月個人支出 [前月比]	±0.0%	+0.2%
	21:30		(米) 6月PCEデフレーター [前年比]	+2.5%	—
	21:30		(米) 6月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.3%	+0.2%
	21:30		(米) 6月PCEコア・デフレーター [前年比]	+1.2%	+1.4%
8/3	10:30	○	(豪) 6月貿易収支	+23.33億AUD	+22.00億AUD
(水)	10:30	◎	(豪) 6月小売売上高 [前月比]	-0.6%	+0.3%
	17:30	◎	(英) 7月PMIサービス業	53.9	53.5
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月小売売上高 [前月比]	-1.1%	+0.5%
		○	(ユーロ圏) 6月小売売上高 [前年比]	-1.8%	-0.9%
	21:15	◎	(米) 7月ADP全国雇用者数	+15.7万人	+10.0万人
	23:00	◎	(米) 7月ISM非製造業景況指数	53.3	54.0
	23:00		(米) 6月製造業受注指数 [前月比]	+0.8%	-0.6%
8/4	—		日銀金融政策決定会合(~5日)		
(木)	07:45		(NZ) 第2四半期失業率	6.6%	6.5%
	19:00		(独) 6月製造業受注 [前月比]	+1.8%	-0.2%
	20:00	○	(英) BOE政策金利発表	0.50%	—
	20:45	◎	(ユーロ圏) 欧州中銀金融政策発表	1.50%	—
	21:30	◎	(米) 7/29までの週の新規失業保険申請件数	39.8万件	—

経済指標カレンダー (8/5)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/5	—	○	(日) 日銀金融政策決定会合(4日～発表)	0.00-0.10%	—
(金)	14:00		(日) 6月景気動向指数・速報 [一致CI指数]	106.3	108.6
			(日) 6月景気動向指数・速報 [先行CI指数]	99.6	103.5
	16:15		(スイス) 7月消費者物価指数 [前年比]	+0.6%	+0.7%
	17:30	○	(英) 7月生産者物価指数 [コア:前年比]	+3.2%	+3.2%
	19:00	○	(独) 6月鉱工業生産 [前月比]	+1.2%	+0.1%
	20:00	◎	(加) 7月失業率	7.4%	7.4%
	20:00	◎	(加) 7月雇用ネット変化	+2.84万人	+2.00万人
	21:30	◎	(米) 7月非農業部門雇用者数	+1.8万人	+9.5万人
	21:30	◎	(米) 7月失業率	9.2%	9.2%
	21:30		(加) 6月住宅建設許可 [前月比]	+20.9%	-5.0%
	23:00		(加) 7月Ivey購買部協会指数	68.2	64.6
	28:00		(米) 6月消費者信用残高	+50.77億USD	+50.00億USD

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com